



会員寄稿

知恵と実践から主体的に未来を拓く教育の推進

— 仲間とともに、地域とともに —

校長 三好 浩行

今年度、大洲高校2年目となりました校長の三好浩行です。どうぞよろしくお願ひいたします。標題に掲げてあるのは今年度の重点努力目標です。本校は、中江藤樹先生の精神を指導目標に掲げております。藤樹先生の教えに、「知行合一」、「致良知」という言葉があります。「知行合一」は、知識と行為は切り離せないものであり、行為によって知識が完成することを表しており、「致良知」は、心に本来そなわっている正しい知恵(良知)を発揮することを表しています。

今年度の重点努力目標は、「知行合一」、「致良知」の精神を受け継ぐ形で設定をしております。仲間と切磋琢磨し、地域の皆様の御協力を得ながら、地域の良さを認識し、地域を愛する心を育み、主体的に考え行動することのできる生徒を育成したいと考えております。

今年度から、学校活動においてマスクの着用を求めないことになり、5月8日には、新型コロナウイルス感染症の分類が、季節性インフルエンザと同じ、5類となりました。まだまだ注意は必要ですが、感染症拡大前の学校活動に戻すことができるのではないかと考えております。特に、中学校で十分な学校活動ができなかった新入生については、思う存分高校生活を満喫してほしいと願っています。

昨年度は、生徒の皆さんに繰り返し「理解してから理解される」と「自分のいいところを探す」ことをお願ひしました。「理解してから理解される」の意味は、相手のことを理解する姿勢を示して初めて、相手も自分のことを理解してくれることを表しています。これは、生徒同士はもちろん、生徒と教員、保護者と子どもとの間でも重要になると思います。生徒は、学習面や部活動、友人関係などで、悩みや不安を抱えることがあります。そのような状況の時に、教員や保護者が生徒の気持ちに寄り添い、話に耳を傾けることができれば、信頼関係が生まれ生徒の悩みや不安も和らぐのではないかと思います。また、自分自身のいいところというのは、見つけることが難しいものですが、生徒にはそれぞれ個性があつて、必ずいいところがあります。教職員や保護者が生徒のいいところを見つけて、伝えることができれば、生徒の自信につながり、前向きな気持ちになれると思います。

生徒一人一人が、楽しく充実した高校生活を過ごし、大洲高校を選んで本当によかったと思えるよう教職員一同全力で取り組みますので、御理解と御協力を願ひいたします。